

カルチャー・ショック

外国人のみた日本



Norma Mansor
1957年生まれ
出身地：マレーシア、クランタン
現在の肩書き：マラヤ大学経済・行政学部準教授
アジ研での研究テーマ：マレーシアの経済成長における公的部門の役割
滞在期間：1996年4月～12月

小さな出来事から受ける感銘

ノーマ・マンソール
(マレーシア)

マレーシア人にとって、日本はいろいろな点で、あこがれの地の一つである。経済的な成功とそれに伴ういろいろな側面がその魅力ひとつであり、豊かな文化や歴史的遺産がもうひとつの魅力である。もちろん、他の国々が日本から学ぶことができる点は他にもいろいろある。そうした、多くの知的・学問的な好奇心から、私は日本について学びたいと思ったのである。そして私は今、本当に日本に来てしまったのだが、毎日の小さな出来事にこそ大きな魅力を感じている。こうした小さな感銘が、日本を去るときに私の宝物になるのだと確信している。

日本はサービスが行き届いた国であることは、知識としては知っていたが、ある経験をしてみると、それを完全に理解することができた。先週、私は美容院へ行ったのだが、美容師さんはとても礼儀正しく丁寧で、お茶を出してくれたり（まあ、それほど珍しいことではない）、店を出るときにはコートを着せてくれたり、ドアを開けてくれたり、私の姿が消えるまで手を振りながら見送ってくれたりした。これぞサービス！
もう一つ、私が日本について聞いていたことは、安全に対する配慮であった。同じ

ように、これも、ある経験によって実感できた。それは、雨に濡れながら仕事に来たある日のことだった。道路や床は滑りやすく、強い風が吹いていた。私は、滑って転ばないだろうか、いつも心配しているような人間である。しかし、アジ研のビルに入ると、とても安心した。玄関からエレベーターまで、人々が滑ってしまわないように、カーペットが滑ってしまわないように、人々の安全に対する配慮は、道路工事をやっているとどこでも見受けられる。歩行者が通るために特別の道を用意され、靴が工事の土で汚れてしまわないようにプラスチックのカバーが使われている。なんといい思いやり！

日本の人にはきれいで、きちんとしている。日本の人にとって、家を掃除するということは、ふつう考えられる「家」の境界を越えているようだ。私の観察によれば、掃除の範囲は、家のまわりの道も含むのである。毎朝、仕事に出かけるとき、日本の人（特にお年寄り）が近所の家の前まで道を掃除しているのを見かける。最後は、道の上の泥やほこりを水で洗い流している。同じように、日本では、建設現場でさえ、道路を汚すことをしない。仕事から帰る途中、建設現場から出てくるトラック

が、きれいな道路に出る前に、汚れを洗い流しているのをよく見かける。

また、正確さや精密さは日本から連想される価値であるが、日本に来てみて、この国の人々が本当に正確で精密であることが分かった。最もわかりやすく一般的なのが、電車や地下鉄のダイヤである。一一時五分に到着することになっている列車は、本当に一一時五分に到着するのだ。同じように、出発の時刻にも一分の狂いもない。ホームの決められた場所に決められた車両がきちんと止まることにも驚かされる。

乗客が列車を待つ列もまた正確である。何度か私も、列車を待つ印の所で待つてみたが、急いで降りる人の邪魔にならないように、ちょうどドアの少し横に乗る人が来るようになっていたのである。こうした正確さが、ラッシュの時間帯をずいぶん平和で効率の良いものにしていてと思う。こんなふうだから、日本の人々は、自分がA地点からB地点までの移動にかかる時間を正確に言うことができるのだ。マレーシアのような国では、その日によって交通がどうなるか予測できないので、時間は大まかな目安としてしか使えないのである。

(海外客員研究員)

訳 熊谷聡